

倶多楽の火山活動解説資料（令和3年5月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①）

監視カメラによる観測では、日和山爆裂火口の噴気の高さは火口縁上100m以下で、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図2-②、図4）

1日に日和山の西側で火山性地震が8回発生し、そのうち日和山の西約2km、深さ3kmで発生した最大規模の地震（マグニチュード2.6）により、登別市鉱山と登別市桜木町で震度1を観測しました。その他の期間では火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図2-③、図3、図5）

4月21日から23日に実施したGNSS繰り返し観測では、2018年から2019年にかけて見られた笠山付近の局所的な変動と考えられる基線長変化は認められませんでした。GNSS連続観測では、2017年頃から観測されている基線長の変化が継続しています。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和3年6月分）は令和3年7月8日に発表する予定です。



図1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
(5月27日、414m山監視カメラによる)

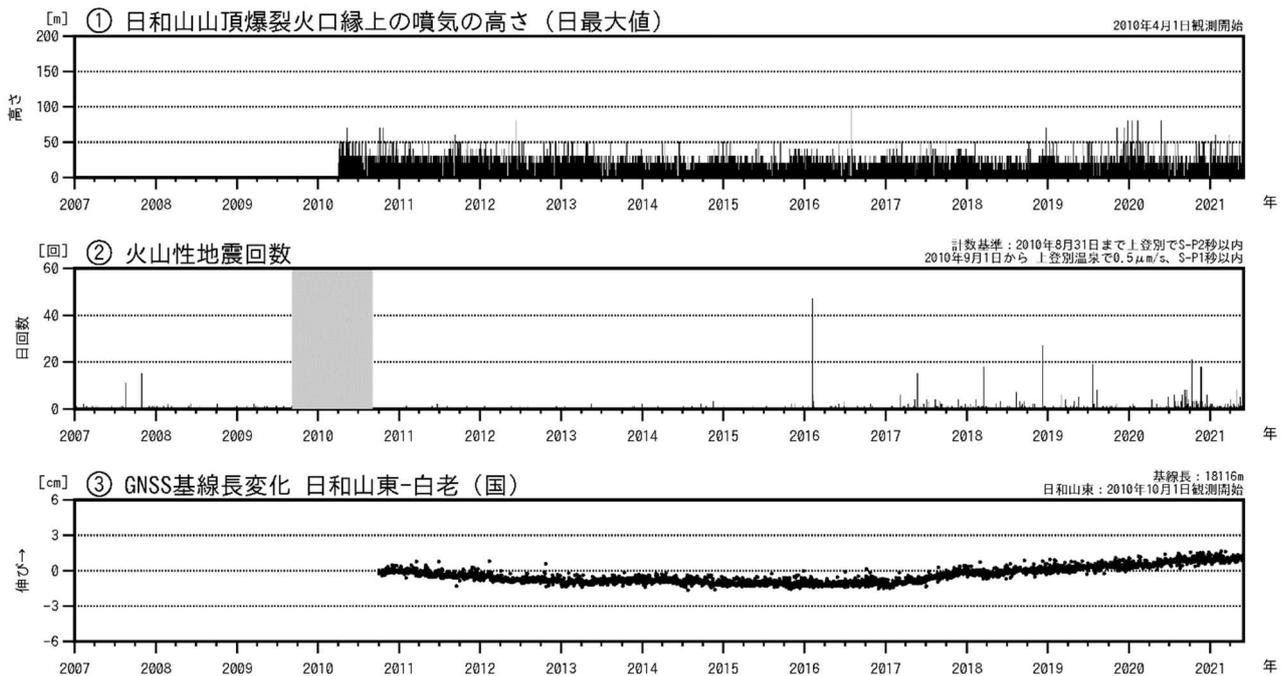


図2 倶多楽 火山活動経過図 (2007年1月～2021年5月)

- ②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
- ③のグラフは図3の基線に対応しています。
- ③のグラフは「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」及び「平成30年北海道胆振東部地震」に伴うステップを補正しています。
- ・GNSS連続観測では、2017年頃から観測されている基線長の変化が継続しています。

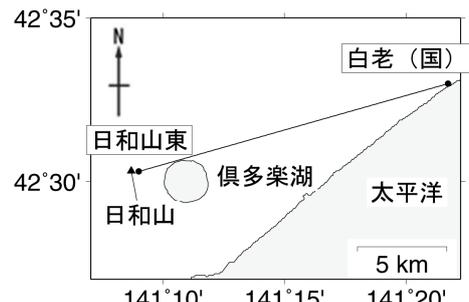


図3 倶多楽 GNSS連続観測基線図
(国): 国土地理院

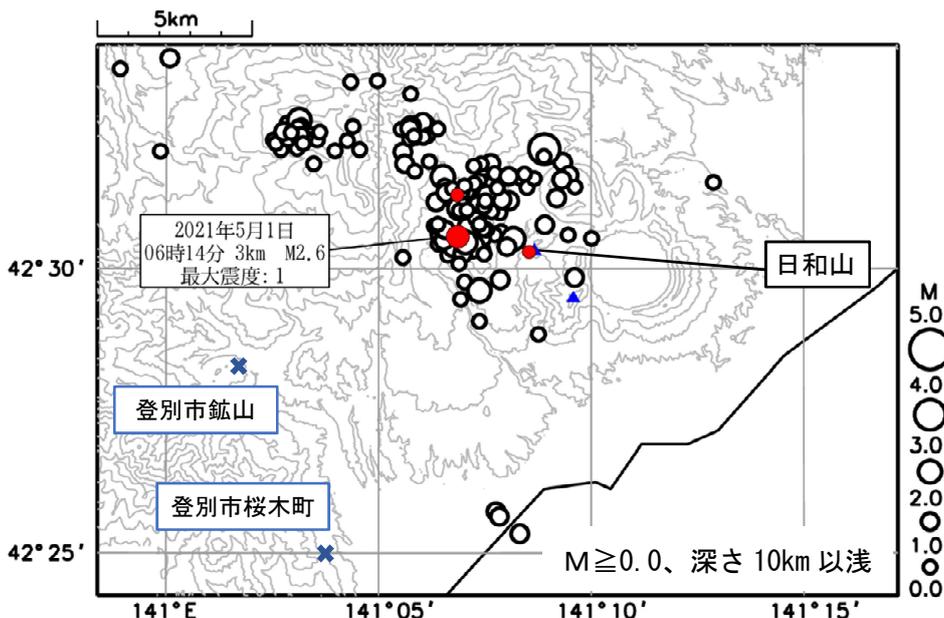


図4 倶多楽 広域地震観測網による山体周辺の地震活動 (2016年10月~2021年5月)

○印：2016年10月~2021年4月の震源

●印：2021年5月の震源

- ・1日に日和山の西側で地震が一時的に増加し、そのうち日和山の西約2km、深さ3kmで発生した地震(マグニチュード2.6)により、図中に×で示した登別市鉦山及び桜木町で震度1を観測しました。



図5 倶多楽 GNSS繰り返し観測による基線長変化 (2007年8月~2021年4月) 及びGNSS観測点配置図

グラフ①~③は左の観測点配置図の基線①~③に対応しています。

- ・①②の基線長変化には、2018年から2019年にかけて笠山付近の局所的な変動によると考えられる伸びの変化がみられていましたが、2019年から2021年ではほとんど変化がありませんでした。

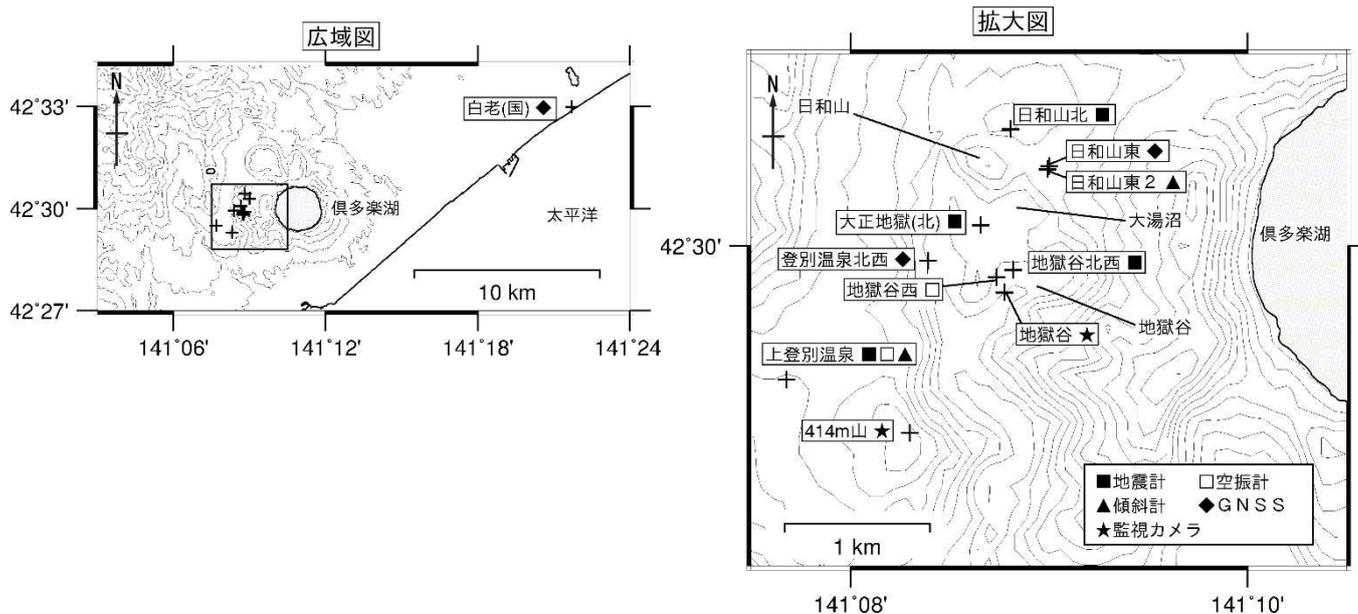


図6 倶多楽 観測点配置図

広域図内の太枠線は拡大図の範囲を示します。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学